

ペルセウス座流星群を見よう



天空が広がるうぶやまの高原は、暑い夏の季節を迎えましたが、高原の涼しい風が吹いています。はげしかった梅雨も明け、産山の高原の夜空には素晴らしい星空が輝いています。

指導員コラム(天体情報・見どころ)

8月の星空情報の第2弾は夏の夜空を彩るペルセウス座流星群です。

三大流星群のひとつであるペルセウス座流星群の活動が8月13日11時頃に極大を迎えます。日本では昼間で観察することは出来ませんが、13日未明を中心に多くの流星が見られそうです。また、極大の13日が新月で、月明かりの影響が全くないという好条件なので、ぜひ観察してみてください。(次ページへ続く)

観察対象



普段より目立って多くのリュウボア群を見ることができるのは、12日の夜から13日の未明にかけてと13日の夜から14日の未明にかけての2夜です。いずれの夜も、21時頃から流星が出現し始め、夜半を過ぎて薄明に近づくにつれて流星の数が増えると予想されます。最も多く流星が見られるのは、13日の夜明けの頃(3時台)と考えられ、空の暗い場所での流星数は1時間当たり35個程度が期待されます。14日の夜明けの頃にも比較的多くの流星が見られそうで、同様に1時間当たり30個程度と予想されます。

流星群は放射点を中心に放射上に出現します。ただし、放射点付近だけでなく空全体に現れます。いつどこに出現するかも分かりませんので、なるべく空の広い範囲を見渡すようにしましょう。また、目が屋外の暗さに慣れるまで、最低でも15分位は観察を続けると良いでしょう。レジャーシートを敷いてジルンに寝転んだり、背もたれがある椅子に座ったりすると、楽な姿勢で観察できます。事故に遭わないように十分注意し、マナーを守って観察してください。